

# 井戸端 市民通信

月刊

読者のみなさんのページです。最終面に掲載している広報クイズの答えと一緒に、気ままなひとこと、ちょっと言いたいひとことを、お待ちしております。

## 読者の伝言板

敬称略

最近、ニュースで新潟県中越地震をやっているのので、いつもハラハラします。でも、二歳の子どもが助けられたなんてビックリ！ それ以外にもビックリしたことがたくさんあり、今までで一番驚かされました。新潟の人は、まだ家にも入れない状態。いつになつたらいつもの生活に戻るのかな(ペンネーム・レモンパイ 9歳・南通)

このたび、新潟県中越地震の被害に遭われたかたがたには心からお見舞い申しあげます。男鹿市で体験した昭和五十八年の日本海中部地震の際は、ガスや水道は使えなかったのですが、幸いにも住宅の被害が少なく、新潟のみならずのように避難することはありませんでした。被害に遭われたかたがたの復興を心からお祈りしています(ペンネーム・リンドウ 50歳・新城)

旧町名物語は大変興味深いです。現在の町並みと比較しながら往時をしのび、ある程

度理解できます。折りにふれて町を見て歩きたいと思えます(寺嶋敏雄 80歳・新屋)

先日、飯島いこいの家の「いきいきサロン」に初めて参加させていただいたときのひとこま。会場を探し探し、息をはずませ着いたのが「高齢者の健康保持について」のお話も終盤でした。ハアハアの息がおさまったところで終了。残念だけど今日は会場が分かっただけで満足と思っていたら、いこいの家の職員さんの施設案内の上手なこと。また友人を誘って利用したいと思いました。そして、利用者の生き生きとした顔に元気をもらった最高の一日でした(渡部栄子 63歳・土崎港)

保育園の二歳男児のつぶやき。給食時間に「ブーッ」と鼻ちようちんが出てきました。彼いわく、「あつ、ぼくのおはなからシャボン玉出てきた」とニコリ。夢がありますね。いつまでも忘れないうでほしいです(新田睦子 47歳・千秋)

## 地域のお話 おしえて!!

このコーナーでは、町内や地域のいろいろな話題を紹介していきます。耳よりのニュースがありましたら、広報課までお知らせください。

tel(866)2034 FAX(866)2287

### 公民館ボランティア「コスモスの会」発足20年 地域とともに歩んできた長い道のり

市内6か所の公民館で、自主企画事業としてジュニアスクールなどを行っている学習ボランティア「コスモスの会」。会が発足して20年がたちました。

発足時の会員は、昭和56年に国の主導で始まった「婦人奉仕活動育成講座」の受講生たち。当時はまだ聞き慣れなかった「ボランティア」について講義と実習を重ね、それが基盤となって、昭和59年に会が発足しました。「地域性を尊重する

ことを大事にしてきました」と会長の高橋知子さん。世代間交流、幼児教育など、その地域にあった内容をテーマに活動を続けてきました。高橋さんは、「一人でも多くのかたが公民館に来てくれるよう、これからも魅力ある事業を行っていきたい」と話してくれました。

「一輪ではあまり見映えしないけれど、並んで咲く姿はきれいで力強い。そんな花のように」と名付けられたコスモスの会。小さなあた

たかい気持ちは、地域のかたがたとともに、大きく咲いています。



11月13日に行われた交流会で。「これからもがんばります！」



# おしゃべりかわらばん



公民館ボランティア・コスモスの会の金子勇子さん(土崎)

## やさしい笑顔に触れて

土崎公民館で「わんぱく塾」などを企画しています。おやつ作りの時に、参加した子どもたちが「これ、妹の分」「これ、おじいちゃんの分」と、うれしそうにおみやげを持って帰る姿に、子どもたちのやさしさを感じています。

## 細かい動作に気を集中

演目「田村」を披露しました。単調に見える動きの中で、細かい動作に気を配る難しい演目でした。表現科で能を学んで4年。これが最後の発表会ですが、日本古来の伝統芸能に、機会があればまた挑戦したいです。



御所野学院高校の表現科発表会で能を披露した宮本寛さん

## 新聞紙が粘土代わり

古新聞でフラワーポットを作りました。水につけて柔らかくなった新聞紙は紙ねんどみたいでした。作る機械の振動で手がしびれて難しかったけど、すぐできたよ。乾いたら、花を入れて家の中に置こうかな。



自然科学学習館の講座に参加した伊藤颯希さん(右・寺内小2年)と智遥さん(1年)

## トライを決めたよ!

児童センターにラグビー選手のお兄さんたちが遊びに来てくれました。ラグビーを見たのも、ボールに触ったのも初めて。一番楽しかったのは、5人1組でやったタッチ・ラグビーの試合。トライも1回決めたよ!



ノーザンブレッツのメンバーからラグビーを教わった近藤優成くん(寺内小1年)

## おいしそうでしょ!

生クリームを泡立てるのはすごく疲れて、職人さんに手伝ってもらっちゃった。飾りつけはうまくいったよ。もったいなくて、崩したくないなあ。家族にちょっとあげて、あとはぼくが食べちゃおうと!



大菓子まつりでケーキ作りを体験した佐藤旭くん(秋大付属小3年)



この大きな半球は、土崎の旧ガス局にあったガスタンク。その名も「りんご皮むき工法」で今まさに解体中の様子です。

雨の日も風の強い日も、毎日欠かさずに早朝(夕方も)に新聞を配達してくださる、元気なおばさんには大変感謝しています。市民のためにこれからもいつまでも元気にがんばってください。僕たちも元気をもらっているように感じます(小野正 34歳・新屋)

係からとこと  
久しぶりに駅前市民市場に行きました。「本日限りだよ」「もつとまけてえ」など威勢のいい声が飛び交います。ガヤガヤした通路を歩いていて、ふと感じました。  
(市役所がこんな風だったらなら...)  
デパートのような広い空間に市民相談室やら福祉事務所やら広報課やら全部の課があつて、市場のお客さんみたいに、気軽な気持ちで来れて、気軽に何でも話ができ、ちょっと怒ったり、でもいっぱい笑ったり、いつだってガヤガヤ、がやがや...  
「役所って行きづらい、堅苦しい」という声をよく耳にします。市役所が市場みたいだったら、ちょっとイイのかな、って思いました。(渉)

## 広報クイズ



寺内児童センターで

### 10月22日号の当選者

前回のクイズの答えは、問1が「佐竹(本)」、問2が「ゼイキッズ」でした。

全問正解164通(応募総数172通)の中から、赤津テイさん(泉中央二丁目)、石塚幸子さん(泉中央二丁目)、伊藤達郎さん(新屋日吉町)、小笠原三夫さん(土崎港南三丁目)、金田昭彦さん(将軍野向山)、神田ナミ子さん(南通亀の町)、吉川雅さん(大住三丁目)、相楽ます子さん(寺内堂ノ沢一丁目)、佐々木勇輔さん(土崎港東二丁目)、竹内サキ子さん(飯島字鼠田尻)の10人のかたに図書カードをお送りします。

11月の広報クイズは最終面です。よろしく!!

広報クイズの当選者は、毎回、市政記者室の記者のかたに厳正に抽選してもらっています(広報課)